

横浜スキー協会 定例評議員会議事録

令和元年7月27日（土）14時30分～16時30分

場所：かながわ県民センター 301会議室

1 開会

2 評議員会成立確認

評議員20名出席、委任状38名、合計58名で有効評議員数86名のうち過半数となるため、評議員会成立を確認。

3 会長挨拶 河邊

令和初の評議員会出席いただきありがとうございます。理事の数は過去最低の人数であるが、各クラブのご協力のもと運営が行えたことに改めて感謝いたします。

今年度は様々なことにチャレンジすると申し上げてきましたが、チャレンジできませんでした。その要因の一つとして、理事の人数よりも必要な能力をもった人材が不足していることが考えられます。役員選考委員会の皆様にもご尽力いただきましたが、更に協会を飛躍させるためには、知の結集、必要な能力を結集させる必要があります。今一度役員のあり方をクラブの皆様と議論し、必要であれば変えるべきものは変えていき、更に活動を活性化させたいと考えております。

役員選考の際に、人材の発掘について役員選考委員会と協会理事会で意見を出しあいながら進めていきたいと考えておりますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

4 来賓挨拶 生駒顧問

5月に令和の世に代わり、スキー協会も昭和・平成・令和と3時代を経過しました。昭和40年代から60年代のころには、会社で福利厚生の一環として、スキー部を作り盛り上げてきたこともあったが、会社の中ではいつの間にか福利厚生の扱いがなくなり、スキー業界の数も減少しているのが実情です。

この状況で、今後のスキー協会がどのように時代に合わせた活動を行っていけるのかは大変難しい課題であります。温暖化の傾向もあり、ウィンタースポーツの維持が難しくなっております。

冬季オリンピックで競技を見ている間は盛り上がるが、自分がその競技を行うための動機づけにはなっていないと感じています。スキー業界も高齢化がすすんでおり、30、40代が少な

い状況です。横浜スキー協会の役員や各クラブの指導者の皆様も苦慮されていると思いますが、令和の世になり協会・各クラブがさらに発展するようお願いしております。

5 議長任命 日立横浜スキー部 辻内氏

6 書記任命 総務部 西田理事、小沼みはる理事

7 議事録署名人 任命 CLUBMAN SNOW 平沢氏

8 理事長報告 坂田理事長（資料 p1 により報告）

70周年記念式典が無事終了したことを感謝申し上げます。

昨年から実施しているジュニア育成事業は、昨年より参加人数が減少したが、将来の人材育成には必要な事業のため、来期も引き続き実施させていただきたいと考えています。各クラブにおかれましては、お子様の紹介を是非お願いします。参加者を増やすため、SNSなどで情報発信を行っていきます。

競技部としては、市民大会の参加者数は昨年比微減となったが、参加費を見直し、決算では黒字となりました。シティカップは参加者増となりました。参加者へのアンケートを実施したところ、参加の動機としては知人からのお誘いというものが多く占めていました。

運営強化とリスク対策として、全行事において参加者への保険をかけたため、コストが増加しましたが、参加いただく選手のためにも今後も実施する予定であります。昨年は1名けが人が出て保険を適用しました。具体的にはポール撤収作業中にアキレス腱断絶でありました。選手だけではなく、参加の皆様にも注意をお願いしたいと考えております。

協会運営として課題は以下の5つがあります

- (1) 競技部は、3月の市町村対抗が競技部の赤字の大半を占めています。他行事は昨年度より60万円ほど赤字改善しましたが、体協の助成金事業を活用した行事であり、さらに赤字をなくすようにしていく必要があります。
- (2) 教育部は、全体で黒字となりました。今年度の計画として、次世代指導者育成プログラムを別事業化しているため審議願います。
- (3) 会員数は減少傾向にあります。合わせて指導員数も減少しているため、登録料収益も減少している。協会の運営は更に厳しくなると想定されるため、会員増に向けては皆様のご協力をお願いいたします。今後は横浜市、体協などとも連携し、市民参加型の行事である市民スキー教室の活用を検討します。
- (4) 協賛企業は3社となり、協賛金として5万円をいただくことができました。今後も協賛企業を増やして活動の活性化につなげていきます
- (5) 組織運営のスリム化ですが、行事運営と参加者の安全確保を考えると、これ以上のスリム化は厳しい状況です。昨年は役員選考委員会や70周年事業などがあり、経費が増加し

ましたが、比較的成本が安い県民センターでの理事会開催やサイボウズの活用などで経費削減に努めています。

9 議題

9.1 第1号議案 (資料p2～37)

9.1.1 総務部 坂田部長

登録状況については、横浜スキー協会所属クラブは86団体(登録料未納4クラブ除く)でありました。登録クラブは記載の通りです。

9.1.2 教育部 小沼裕司部長

(ア) 市民スキー教室

参加者87名(募集100名より少ない)であったため、人数減を見越した予算額としたが、当初予算に近い約19万円の黒字決算となりました。最近の傾向として上級者の参加者が増えたことで、エキスパート班を2班で実施しました。一般スキーヤー、ファミリーからの掘り起こしをやっていきたい。その呼び水となる重要な行事と位置づけています。ジュニアテストや級別テストも実施しており、そこからスキーへの興味を持ってもらえるように誘導していきたいと考えております。

(イ) 指導員検定受検サポートプログラム

1シーズン通して、受検者のサポートを行いました。受検者の方にはLINEのグループ機能を活用し、情報共有を図りました。また、グループLINE上で個別にカルテを試行しました。滑りの動画を掲載し、受検者が自己分析したものを講師がフィードバックすることで、技術向上を図ることができ、非常に効果が高かったと考えております。指導員受検では全体の合格率は41.3%だったが、横浜の合格率は55.6%と高い結果であったのは、所属クラブの皆様の指導の賜物であり、実際の受検者の努力が大きかったと考えております。これまで、指導者資格を取ることをサポートしてきましたが、次のステップとして、今年度は、指導者としてのスキルアップを目的とした事業を展開する予定です。

(ウ) ファミリースキー教室

例年、ファミリースキーは春休み期間の2泊3日を狙い、ご家族が参加しや

すいように企画しているが、今年は年度末の金曜日を含んだ週末のため、日程調整が難しかったと考えております。今年度はタングラムスキーサーカス（斑尾）を利用しました。開催地の定着も検討します。

参加者レベルは、市民スキー教室よりもファミリー層で初級者が多いので、スキーヤーの掘り起こしには有効な行事であります。

9.1.3 競技部 森山部長

(ア) ジュニア育成事業（補助事業）

ジュニア競技力向上行事としては2年目です。スノーヴァ行事は9月から11月の3回開催しました。また雪上行事としてはポールトレーニングを中心に行事を開催しました。スノーヴァ行事の2回目参加者が多かったのは、クラブ行事との併設開催となったためです。

ジュニアスキー教室では、級別テストでの合格を一つの目標としました。結果としては合格率33%であったため、さらなる向上をはかる必要があります。インフルエンザ罹患者への対応で、役員に看護師がおり適切に対応できたと考えております。

ポールトレーニング行事では、タイムレースを実施し、タイムに基づいたトレーニングを計画して運営したことでモチベーション向上につながったと考えております。またトレーニングに参加したお子様がシティカップで優勝したことは大きな成果でした。

行事全体としては参加者が定員割れの状態であるため、クラブの皆様のご協力をお願いしたいと考えます。クラブ共催等、検討いただけるようであればぜひお声がけいただければと思います。

(イ) 市民大会

参加費を3,000円/1種目と値上げしたことで、収益を改善できました。大会のリザルトは記載の通りで確認をお願いします。

(ウ) 市町村対抗大会

横浜市は2位でした。選手が少なく、特にジュニアクラス参加者が少なかったことが大きな課題でありました。

(エ) 横浜シティカップ

ジュニア育成行事のポールトレーニングに参加した子どもが優勝しました。

9.1.4 総務部 坂田理事長（兼務） 決算報告

(ア) 貸借対照表

流動資産で平成 29 年度会議費（約 33 万円）が未払い計上されてなかったのを雑費処理として計上したため、60 万円減となりました。

記念事業対策積立資産は、約 112 万円の積立金をすべて取り崩して記念事業に充てました。さらに不足分 3 万円弱を管理より補填させていただきました。また、役員等旅費交通費として一部費用を管理部門でご計上しました。会計ソフトへの入力間違いが原因です。こちらはお詫びして訂正させていただきます。

(イ) 正味財産増減計算書

経常収益の内、外注費は 70 周年行事での外部委託費です。会議費の一部を役員等旅費交通費の費目で誤計上となっていますが、正しくは約 44 万円であり、昨年度よりも減少しました。これは、会議場所を精査したことが大きいと考えています。その他、役員選考委員会や臨時評議委員会等で会議回数が増加したことで、結果として会議費は増加しました。

交通費は全体で 32 万円程度となりました。こちらは臨時評議委員会の開催等が影響した結果であります。

通信費は 70 周年行事の記念誌及び案内状送付等で約 50 万円かかったことが大きな増加要因でした。

渉外費は 70 周年行事の会場費です

雑費は、H29 年度交通費・会議費の未払金が増減の増加要因となっております。

(ウ) 行事単位での決算報告

ジュニア育成では、参加費の見直し等で昨年 43 万円の赤字から今年度 10 万円の赤字まで改善させることができました。全体で昨年度 126 万円の赤字から、今年度おおよそ 67 万円の赤字と収益を大幅に改善させることができました。

教育部は全体として黒字で終わることができました。

70 周年行事は全体で約 115 万円の赤字となりました。

(エ) 財務諸表注記

補助金は、ファミリースキー行事で信濃町から頂いた金額です。こちらは当該行事の景品として充当させていただきました。

(オ) 財産目録

70周年記念行事の不足分として、総務会計から29,148を充当させていただきました。

(カ) 予算対比正味財産増減計算書

参加者等交通費は、参加者が減少したことで結果減少となりました。また賃借料は70周年行事での各種備品レンタル代となっております。

9.1.5 総務部 坂田理事長 各行事明細報告

(ア) ジュニア育成 (p.26)

全体収益としては、昨年度比30万円ほど改善させることができました

(イ) 市民大会 (p.27)

役員等旅費交通費ですが、派遣役員が予算7名から実績4名という結果となったことで減少しました。役員として派遣できる要員を確保できなかったことが要因です。役員が少なかったことで大会運営はかなり厳しい状況でした。けが人が出なかったことは不幸中の幸いと感じております。今回の人数で実施できたということではなく、運営は厳しいということはお伝えしたいです。

(ウ) 市町村対抗 (p.28)

収入源がないため、経費がそのまま赤字収益という構造です。こちらは前年比として競技参加者が減少しました。その分出費が少なくなっております。

(エ) マスターズ (p.29)

参加者が増加したことで、赤字幅が昨年比減少しました。

(オ) 競技部共通 (p.30)

作業費はこれまで行事単位としていたが、今年度から共通として扱ったことで増加している。またその作業に伴う雑費も計上したことで、結果増加しています。

(カ) 市民スキー (p.31)

役員等旅費交通費が33万円増加となったが、これは昨年度まで役員分の交通費を参加者費用に含めていたことが原因です。これを昨年度同様の仕分けを行うと、役員等旅費交通費は約94万円となり、昨年比20万円の減少となりました。

(キ) 指導者育成プログラム (p.32)

参加者増及び派遣役員増となったことで全体収支が増えております

(ク) ファミリースキー (p.33)

行事収益を参加者等旅費交通費の収入として勘定科目違いで入力しています

した。そのため行事収益が少なくなっています。行事収益に関しては誤入力した勘定科目を参加者等旅費交通費から行事収益への変更が必要です。

(ケ) 教育部共通 (p.34)

競技部同様、作業費を雑費として計上しております

(コ) フェスティバル (p.35)

フェスティバルは今年度未開催でした

(サ) 70周年記念行事 (p.36)

行事収益は、参加いただいた皆様からのお祝い金等です。目標は150名でしたが、結果は100名強という結果となりました。会議費が0円となっておりますが、こちらは勘定科目を役員等旅費交通費で入力していたので会議費に修正します。先にも述べた部門を管理として計上した部分の部門を70周年記念行事に戻すことが必要になります。

記載間違いで会議費は、190,680円になりますので訂正をお願いします。

(シ) 総務部管理 (p.37)

会議費の修正が必要です。役員等旅費交通費は、先にも述べた通り70周年記念行事の役員等旅費交通費がこちらに計上されているので部門訂正が必要です

各行事等に訂正がある状況ではありますが、全体の収支に関しては、変更はない状況です。行事単位の明細部分で増減があり、こちらの見直しが多く発生している状況をお詫びいたします。

9.1.6 監査報告 (資料p38により報告)

業務監査

事業運営は、今期は理事の数が少なく理事間で兼務を行っている状態で、運営のリスクは高いと思われます。競技部行事と教育部行事の併設開催なども状況によっては望ましい形態と考えます。70周年記念行事では会員の皆様よりご協力を賜りありがとうございました。会計処理としては、行事現地での現金の取り扱いに証憑書類の工夫が必要と考えます。

会計監査

今回の決算報告を踏まえ、会計基準の精査をお願いする次第です。協会の会計は1,400万円を超える規模であり、勘定科目の再整理も併せて必要と考えます。今回の評議員会のように口頭修正項目が多く見られるのは問題です。修正した決算報告書を近々に皆様に公開し、閲覧できる状態にすることを条件に会計監査としてお認めすることで報告とさせていただきます。

9.1.7 質疑

Q1 ペガサススキークラブ 岡本評議員

- 会計事務所が入っていながらも、勘定科目の振替の間違えがあるのは改善してほしい。
- 70周年記念式典の決算報告をしているが、事業報告がない。こちらの理由を確認したい
- 財務諸表の各項目に修正点が多い。
- 理事長の口頭での報告と各事業報告の記載に差異がある。

A1 坂田理事長

- 70周年事業報告は完全に失念していた。申し訳ない。評議員の皆様には郵送する形で対応したい
→ 通信費、作業費等がかかる必要はないので、ホームページへの掲載でも良いのではないかと思うがいかがか（岡本様）
→ 了解した。速やかに訂正版を作成し、ホームページに掲載する。(理事長)
- その他項目に関しても訂正版を速やかに提示する

Q2 ペガサススキークラブ 岡本評議員

- 平成29年度の未払い会議費の取扱いなどの特記事項は注記をしてほしい。

A2 坂田理事長

- こちらも修正を行い、訂正版をホームページ等で掲載する

Q3 ユーベルスキークラブ 有江様

- 何を訂正して、何を掲載するのか明確にしてほしい。

A3 坂田理事長

- 前年度と大きく金額が違っている部分と、管理と70周年記念事業の変更点を一覧表にして提示する。

河邊会長

- 決算資料については、すべて正しいものを作成し、ホームページ上に掲載する。注記についても同様に取り扱う。

Q4 ハマスキークラブ 佐々木評議員（代理）

- いつの時点で間違いに気づいたのか。評議会資料を作成するスケジュールに問題があったのではないか。訂正版を作ることはできなかったのか。

A4 坂田理事長

- 評議員に送付後、7月13日に気が付いた。その内容確認で時間が経過してしまった。会計ソフト上のデータを精査後、会計事務所に相談したが、訂正期間が十分取れないため、評議員会では口頭での説明を行って了承を得る方針として会計事務所とは合意を得た。

→ 間違いに気づいた時点でなぜ他の理事と情報を共有し、訂正作業に当たらなかったのか（佐々木評議員）

→ 単純に私自身で抱えてしまったことが原因です（坂田理事長）

【議長】監査内容が正しいとして、訂正版を速やかに掲載し、確認することを条件として第1合議案を承認することとしたいかがか

→ 評議員一致で、第1号議案と監査報告承認

9.2 第2号議案 坂田理事長

9.2.1 令和元年度事業方針（資料p40により報告）

競技部は協賛企業とタイアップした行事検討を行います。ジュニア育成プログラムは事業として赤字であったとしても今後の人材育成に向けた投資として今後も継続していく予定です。また会計処理に関しては複数人による対応を行い、ミスを低減させます。

9.2.2 令和元年度行事計画（案）（資料p41により報告）

（ア）教育部

前年度との変更は「指導者検定受検サポートプログラム」の事業とは別に「指導者育成プログラム」を立ち上げる。雪上で、初心者向けのレッスンを学んでもらい、その後指導法の実践、スキルアップを経て、市民スキー教室・ファミリースキー教室で、アシスタントを担当してもらい指導スキルを身につけてもらうことを計画しています。

行事開催場所に関して、メイン行事は従来どおりで計画しています。

（イ）競技部

ジュニア育成プログラムの会場を、丸沼高原スキー場から白馬五竜スキー場に変更する計画です。これにより行事収益も改善を見込んでおります。

9.2.3 令和元年度予算書（案）（資料 p4 2 により報告）

競技部は、ジュニア育成基礎は会場が変更になったが、赤字にならないように推進いたします。

教育部は、指導者育成事業で 18 万ほど赤字での予算計画としております。理由としては、育成対象者はアシスタント扱いのため行事参加費をもらわずに参加費用を協会から拠出するためです。

9.2.4 質疑

Q 1 スポーツマンクラブ 山本評議員

- 市民大会・シティカップなどでは、競技の前日に練習用のポールを張って練習可能になっているが、参加者には伝わっていない。宣伝を強化し、ジュニアは特にスケジュールが立てられるようにしてほしい。

A 1 坂田理事長

- 引き続き実施する。行事案内においてトレーニング案内をしっかりと提示するよう推進する。

Q 2 議長

- 予算書の勘定科目は精査済みで間違いはないか。

A 2 坂田理事長

- チェック済で修正はない。

【議長】第 2 号議案承認でよいか → 評議員一致で承認

9.3 報告事項

9.3.1 新規加盟、脱退、除名所属団体（坂田理事長）

4 クラブが団体登録料未納のため、クラブ代表者に連絡後、脱退・除名に関して決定する。対象は以下クラブ

- 慶応義塾大学丘の上スキークラブ
- BEANS SKI TEAM

- 航友会スキークラブ
- TEAM J

航友会スキークラブの会員は、横浜 YY スキークラブに移籍しており、クラブは実質廃部状態になっております。2名いた会員が2名ともYYに移籍している状況と伺っております

→【承認】

9.3.2 役員選考委員会より 岡本委員長

昨年の評議員会の中でも理事の追加募集を募っていたところ、推薦書が1件上がってきた。しかし執行部より追加要員必要なしということで推挙せず。会長枠で1名が上がっているが、こちらは執行部に人選は一任し、検討いただきたいと考えております。

9.3.3 質疑応答

Q1 クラブ・ド・ネージュ 山田評議員

会計が厳しい状況なのは決算報告で理解したが、この状況で会計事務所に50万円も支払っている。それなのに決算資料が間違っている。どのように会計士がチェックしているのか不明確ではないか。この規模の会計報告であれば、会計事務所に頼まなくてもまとめられるのではないか。

会計士を入れた経緯は理解しているが、評議員が推挙した理事としては会計士の情報もチェックいただきたい。会員からの会費を有効活用していただきたい。

A1 河邊会長

今回の間違いは何が原因か解明する。会計事務所への支払いの妥当性も併せ、持ち帰り検討する。

Q2 ハマスキークラブ 佐々木評議員（代理）

- 評議員会資料で文字のポイントは合わせてほしい。
- リザルトはページ数がかかっても大きな字にした方が良い。文字が小さくて読みづらい資料となっている。せっかくの記録なのだからしっかりとアピールできるように考慮いただきたい
- 自分も昨年携わっていて手が及んでいなかったが、協賛企業を大事にす

ると言いながら、評議員会資料に協賛企業の一覧や、企業の広告すらない。協賛企業をもっと大事にしないといけないと思う。

A2 河邊会長

いただいた意見は来年度資料には反映したい。

Q3 山田顧問

- 長年協会に携わってきましたが、このような決算を見たのは初めてではないか。修正項目が多すぎる。必要に応じて顧問として支援を行っていききたい。正しい情報をホームページに出すということだが、いつ出すのか確認したい。
- 勘定科目の収入がすべて収益と記載になっている。正しく記載いただきたい
- 70周年行事も祝い金などは明確にしておくべきであったのではないか。お金の問題で組織は破綻することが多いので一層の配慮をお願いする。
- 公益財団法人の場合、承認は拍手でなく挙手が一般的。今後、法人化するにあたって、高い意識をもってほしい。

A3 河邊会長

収益については、公益財団法人を対象とした用語の使い方として収益と示されています。全日本スキー連盟も同じように使用しているため問題ないと考えております。その他頂いた意見は真摯に受け止め、理事で改善を図ってまいります。

Q4 クラブ・ド・ネージュ 山田評議員

競技部と教育部では、決算書の書式が異なっている。競技部はバランスシートがない。教育部の書式の方が見やすいため、あわせてほしい。

A4 河邊会長

かしこまりました。改善を図ります。

10 議長解任

11 鈴木副会長挨拶

長時間の確認及び議論ありがとうございました。みなさんのご協力も有り、時間通り終えることができました。本日はたくさんの貴重なご意見をいただきました。これからの1年、理事が一丸となって活動してまいります。皆さまのご支援ご協力をお願いいたします。

以上

議事録署名人

平 沢 勇 